

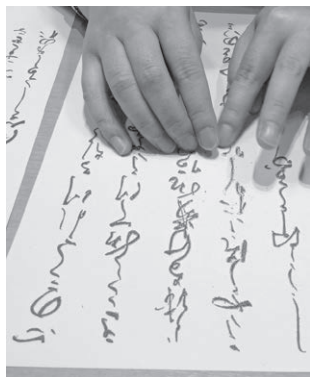
<b>発表タイトル</b>	指で読めた鎌倉期の写本『源氏物語』 —視覚障害者と文化を共有する—
<b>発表者所属名</b>	日本文学研究専攻 教授
<b>発表者氏名</b>	伊藤 鉄也

本ポスター発表は、総合研究大学院大学の他専攻及び異分野からのご教示を期待して、触読による研究成果の一部を公開し、幅広い理解と協力を求めるものである。

本年度より科研費で、「視覚障害者と共に古写本の仮名文字を読み日本古典文化を共有するための挑戦的調査研究」が採択された（2015～16年度 挑戦的萌芽研究／研究代表者：伊藤鉄也／課題番号:15K13257）。その調査研究の過程で、視覚障害者（触常者）が今から700年前に書写された古典籍の変体仮名を触読できることが確認できたのである。

近年、パソコンの活用により触常者の読書スタイルが多様化し豊かになった。しかし、点字と音声だけでは、過去に遡る豊かな日本の文化資源の受容にも限界があり、温故知新の知的刺激を実感し実践することも困難である。

そこで、日本の古典文化を体感できる古写本『源氏物語』を、その中でも鎌倉時代に書写された変体仮名の文字列を、触常者が能動的に読み取る方策を探ってきた。その試行錯誤の結果、立体コピーの活用により変体仮名の触読が可能となったことを報告する。



触読中



立体コピー機

今後は、『変体仮名触読字典』と『点字版古文学習参考書』の作成に着手する。この目的のために、音声支援システム等の導入と共に、学習システムの構築を目指すことになる。

これらの実現は、国文学研究資料館が所蔵する約20万点にも及ぶ古典籍のマイクロ・デジタル画像資料の、触読による新たな活用の道を開くことになるはずである。

■現在、この課題に協力するメンバーは以下の通りである■

- ◎広瀬 浩二郎（国立民族学博物館・准教授） ◎大内 進（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・企画部客員研究員） ◎中野 真樹（関東短期大学・専任講師） ◎渡邊寛子（福島県立盲学校高等部国語科・教諭） ◎高村 明良（全国高等学校長協会入試点訳事業部・専務理事） ◎岸 博実（京都府立盲学校・講師） ◎間城 美砂（国文学研究資料館・学術情報課職員） ◎浅川 槇子（国文学研究資料館・プロジェクト研究員） ◎加々良 恵子（国文学研究資料館・研究支援者） ◎関口 祐未（国文学研究資料館・科研運用補助員）